

～京のお宝～

* 祇園祭 *

岩坪美里・坂本江里・坪田早希

—目次—

はじめに

1. 祇園祭とは
2. 祇園祭の歴史
 - (1) 祇園祭のはじまり
 - (2) 祇園祭の変遷
3. 祇園祭の現状
4. 山鉾の特徴
5. 山鉾連合会資料室に行って
6. インタビュー
7. まとめ
8. 感想

はじめに

お祭りというのは地域の人々でつくり上げていくものが多く、地域でつくり上げるお祭りには何かお宝性があるのではないかと考えこのテーマを選んだ。そして京都のお祭りといえば京都三大祭がありその中でも最も有名で、平安時代から 1100 年続く伝統的な祭である祇園祭を調べることにした。

1. 祇園祭とは

祇園祭は、日本三大祭の一つに挙げられる八坂神社の祭礼である。歴史の長さや豪華さなど様々な点で広く知られる大規模な祭りで、祭事の中で最もよく知られているのは 7 月 17 日に行われる 32 基の山・鉦の巡行である。

32 の山鉦それぞれが町単位の保存会によって運営されている。山鉦それぞれに独自の歴史・いわれがあり、それに基づいた行事や懸装品と呼ばれる美術品が現在に残っている。鉦は、最大のものだと約 12 トンにもなる。また、これらを組み立てたり、巡行や解体したりする作業には延べ約 180 人もの人が必要で、鉦の高さは地上から鉦頭まで約 25 メートルである。一方、山は各山とも構造・重量に大差はない。山の中でも岩戸山、北観音山は曳き山で、形態は鉦と同じで、高さは地上約 15 メートルである。重量は約 1.2 トン～約 1.6 トンである。

山鉦 32 基

鉦

長刀鉦 (なぎなた)

放下鉦 (ほうか)

函谷鉦 (かんこ)

四条傘鉦 (しじょうかさ)

月鉦 (つき)

鶏鉦 (とり)

綾傘鉦 (あやがさ)

菊水鉦 (きくすい)

船鉦 (ふな)

山

郭巨山 (かつきょ)

山伏山 (やまぶし)

占出山 (うらで)

孟宗山 (もうそう)

油天神山 (あぶらてんじん)

太子山 (たいし)

保昌山 (ほしょう)

白楽天山 (はくらくてん)

木賊山 (とくさ)

芦刈山 (あしかり)

伯牙山 (はくが)

蟪蛄山 (とうろう)

岩戸山 (いわと)

北観音山 (きたかんのん)

南観音山 (みなみかんのん)

橋弁慶山 (はしべんけい)

霰天神山 (あられてんじん)

鈴鹿山 (すずか)

鯉山 (こい)

八幡山 (はちまん)

黒主山 (くろぬし)

浄妙山 (じょうみょう)

役行者山 (えんのぎょうじ)

や)

巡行の他にも祭事は多数あり、それらは1ヶ月にも渡って行われている。主な行事は下記の通りである。

行事名	日時	場所	行事の内容
吉符入	1～5日	各山鉾町	神事始の意味で各山鉾町において、町内関係者が本年の祇園祭に関する打ち合わせをする。
長刀鉾稚児お千度	1日	八坂神社	長刀鉾の稚児関係者らが稚児と共に神事の無事を祈願。
くじ取り式	2日	京都市役所	17日の山鉾巡行の順番を決める。
山鉾町社参	2日	八坂神社	各山鉾町代表が祭礼の無事を祈願。各山鉾町が鉾や山を組み立てる。
鉾建て お迎え提灯	10～14日 10日	各山鉾町	神輿洗いの神輿を迎えるため、万灯会員有志が提灯行列を整え、清々館より所定のコースを経て本社に戻り神輿洗の神輿を迎える。
神輿洗い	10日	四条大橋	氏子総代世話方らが神輿をかつぎ大松明をかざして行列し、四条大橋に行く。
鉾曳き初め	12～15日	各山鉾町	各町内の人々が祇園囃子をはやしながら各鉾を試し曳きする。
稚児社参	13日	八坂神社	長刀鉾にのる稚児が乗馬にて社参し、五位少将、10万石大名の格式が与えられる。
宵山	14～16日	各山鉾町	夕刻より駒形提灯を灯した山鉾でお囃子が始まる。山鉾町の町家では表を開け屏風などの美術品を飾る。今様・日本舞踊・狂言・詩吟・琵琶
伝統芸能奉納	15日	八坂神社	などを奉納する。
献茶祭	16日	八坂神社	裏と表の千家が一年交代で献茶の奉仕をする。
山鉾巡行	17日		長刀鉾を先頭に四条烏丸→四条河原町→河原町御池→新町御池と巡行する。途中、四条堺町でくじ改めをする。
			3基の神輿が八坂神社から四条お旅

神輿渡御 (神幸祭)	17日		所まで巡行し、神輿は24日までお旅所に留まる。
狂言奉納 花傘巡行	18～20日 24日	八坂神社	学生狂言研究会による狂言の奉納。 「後のまつり」の巡行が17日の山鉾巡行と合併したため、山鉾の古い形態を再現する狙いで始められたもので、花傘の10余基をはじめ京都花街のきれいどころの踊り、鷺踊、久世六斎、子供神輿、祇園ばやし、稚児など総勢千人の行列が続く。
還幸祭	24日		17日に四条お旅所に渡った3基の神輿が、八坂神社への帰り道を巡行する。古代の祇園祭に習った行事。
神輿洗い	28日	四条大橋	10日の神輿洗いと同じ。その後神輿はしまわれる。
神事済奉告祭	29日	八坂神社	祇園祭の無事終了を奉告し、感謝する。
疫神社夏越祭	31日	疫神社	疫神社は八坂神社内になる。参拝者が鳥居にかけられた2メートルの茅の輪をくぐり、疫病を祓う。

2. 祇園祭の歴史

(1) 祇園祭のはじまり

祇園祭の起源は、平安時代初期までさかのぼる。今からおよそ1100年前に、人口密集地域の大都市では衛生管理が不十分であったため、京都をはじめ日本各地に疫病が流行し、多くの死者が出た。京都で平安京が造られた場所が、盆地（の中央部の低湿地帯）であったため、高温多湿になる時期には、特に食物は腐敗しやすく、食中毒や伝染病などが発生しやすい状況であった。平安京は十万人を超えるような大都市であり、伝染病が発生すると、たちまち広く蔓延するため、人々は疫病を最も怖れていた。彼らは、このことを政争で破れ、恨みを現世に残したまま亡くなった人々の怨霊の祟りであると考えた。そこで、怨霊を慰撫し、疫病がこれ以上蔓延しないように祈願する祭りが行われるようになった。これを「御霊会」という。このような御霊会が変化していき、今日の祇園祭になったと考えられる。

御霊会は、出雲路、紫野、衣笠、花園、東寺、西寺などの都の各地で度々行われていた。祇園・八坂の地でも行われ、そこで行われた「祇園御霊会」から展開したのが「祇園祭」である。祇園祭の創始について定まった説はないが、一般的に祇園祭の創始は貞観 11(869)年とされる。この年の疫病流行により当時の日本全国の国数である 66 本の矛を作り、これを神泉苑に送ったことが始まりとされる。神泉苑とは、(朝廷の建物が並んでいた大内裏のすぐ南側に位置していた園池のことで)、現在の二条城の南側付近に当たる。いつもは、天皇や皇族専用の公園であったが、この日に限り、門が開かれて、一般の人々も御霊会に参列することができたのである。

(2) 祇園祭の変遷

○平安時代中期

祇園祭の誕生：貞観 11(869)年に 66 本の矛を神泉苑に送ったことがはじまりとされる。この頃は現在のように山鉦が出る町衆の祭ではなく、主に国の祭として行われていた。

○平安時代中期～南北朝時代

平安時代末期になると、武家が台頭するとともに町衆も徐々に祭の主役になっていく。

鎌倉時代には鉦に長刀などの装飾を付けたものが行列に加わり、人々の関心は山鉦巡行に移っていき、山鉦の数が年々増えていく。

○室町時代

この時代に京都では応仁の乱が起こり、祭は 33 年間途絶えることになる。応仁の乱から 33 年後の明応 9(1500)年に祭は町衆の手で再興される。

この頃、町の象徴として山鉦の巨大化、装飾化が進む

○安土桃山時代～江戸時代

安土桃山時代から江戸時代にかけて祭はより盛大になる。

豊臣秀吉が「寄町制度」を実施し、山鉦の安定を図る。京都近郊の町を寄町に指定し、費用を徴収し、経済的に安定を図っていた。

京都の町は、宝永、天明、元治の三度に渡る大火に見舞われ、多くの山鉦が被害を受け、山鉦巡行は度々中止された。しかし、その都度町衆によって再興されていく。

京の町は、商工業都市として発展し、これに反映して山鉦も豪華さを増すようになる。

○明治時代～昭和初期

太陽暦の採用から、6 月の祭が 7 月の祭に変わる。

神仏分離令により、「祇園社」から「八坂神社」に改称される。

寄町制度が廃止され、山鉾存続が危うくなったが、宮牛講社、清々講社、祇園祭山鉾連合会などが新たに組織され、祇園祭を支えることになる。

○昭和中期～

戦時体制化と戦後

昭和 17 年までは山鉾巡行は行われたが、太平洋戦争のため昭和 18 年～21 年の間、4 年間山鉾巡行が中止される。終戦後は復活し、昭和 27 年に全山鉾が戦前通りに巡行する。

御霊会が変化していく過程は、あまりはっきりとしていないが、十世紀の間に祇園祭や他の御霊信仰系の祭りが成立したと考えられている。現在のような祇園祭が始められるためには、いくつかの条件が必要であった。それが以下のことである。

- ①怨霊を祭神として祀る**神社**の成立
- ②平安京内の**住民の信仰圏**の成立
- ③**御霊会が定期的におこなわれるようになること**
- ④**神輿の出現**
- ⑤平城京の中に位置する**御旅所**というものの成立

* 御旅所：神輿が例祭の期間中に赴いてそこに留まるための場所

これらの条件が整って、現在のような祇園祭に展開していったと考えられている。

以下にそれぞれについて説明していく。

固有の怨霊を祭神として祀る、固定した神社の成立

平安京が造営された当初は、神社らしきものはほとんど存在していなかった。平安京は朝廷の建物群と邸宅地で埋め尽くされており、神社が建設される場所というのがなかったのである。そのため、疫病の発生などによって問題が起これると、平安京外の空いた場所、神泉苑や船岡山などで御霊会が行われていたが、怨霊は恨みを残して死んだ個々の人々というよりは、神格化していき、怨霊として崇っている神々として祭祀されるようになる。そこで、平安京外に怨霊として崇っている神々を祭神とする神社が成立していくことになる。御霊会は、平安京の住民の中でも上層の天皇や貴族といった人よりも、一般の民衆に支持されていた。そのような人々が祭祀する怨霊の神々が祀られた場所は、最初は、道端の祠のようなものであったのが、しだいに規模が大きくなり、境内や社殿などが整備されて神社としての語りを整えていったと考えられている。

祇園社の成立

祇園祭は京都の東に位置する八坂神社のお祭である。八坂神社は以前、「祇園社」や「祇

園感神院」と呼ばれていた。祇園社の主祭神は、スサノオノミコトをはじめ櫛稲田姫命(くしなだひめのみこと)、八柱御子神(やはしらのみこがみ)という神道系の神々であるとともに仏教系の牛頭天王を始め、その一族の婆利采女、八王子であるとされていた。明治時代初期に行われた神仏分離令により、神仏習合の神社であったのが、仏教系の色彩の側面を取り除かれ、神社の名称も「祇園感神院」から「八坂神社」へと改称した。

住民の信仰圏の成立

御霊信仰系の神社は平安京外に点在していたことは上記したとおりである。それを信仰していたのは、平安京内に居住する住民、下層の民衆であった。その人々は、疫病などの御霊の祟りを避けるために郊外で御霊会を行ったり、神社に参詣していた。しかし、次第に彼らは、自分の居住する地域の御霊信仰系の神社を定め、信仰するようになっていく。それこそが平安京内での住民の信仰圏の成立であった。

神輿の渡御の発生

祇園祭に神輿というのはイメージしやすいが、以前神輿は現在のような使われ方をしていなかった。北野の船岡で御霊会が行われた後、その怨霊を木工寮の修理式が造った神輿二基に載せて、難波海まで運び送ったという記録がある。このことは、この日の御霊会のために、神輿をわざわざ造り、儀式終了後には、その神輿を大阪湾まで持って行き流していることを示している。つまり、この頃、神輿は、行事一回のために造られ、崇っている怨霊を追い払うために使われた使い捨てのものであった。

祇園祭の御旅所の成立

祇園祭には、御旅所の成立が重要であった。御旅所とは、神社の祭礼に神輿が本宮から渡御して仮に留まる所である。祇園社の御旅所は二つあった。一つは、大政所の御旅所であり、ここには、祭礼の際に、祇園社の三基のみこしの中で、中御座(牛頭天王を奉ずる神輿)と東御座(八王子を奉ずる神輿)が渡御して、留まっていたのである。もう一つは、少将井の御旅所であり、ここには、祭礼の際に、祇園社の三基の神輿の中で、西御座(婆利采女を奉ずる神輿)が渡御して、留まっていたのである。

現在の祇園祭といえば、山鉾巡行と宵山をイメージしやすい。しかし、祇園祭の本来のあり方は、三基の神輿の御旅所への渡御を中心とするものであった。様々な説があるが、祇園祭の基本形が定まったのは、十世紀の末期から十一世紀の前期とされる。

3. 祇園祭の現状

祇園祭の観光客は延べ人数 **100 万人**で、全国各地だけでなく海外からも多くの観光客が訪れる。露天商については店舗数が約 **700 店**で、売り上げは平成 19 年の宵山 3 日間（7 月 14 日から 16 日）で、1 店舗あたりの 1 日の売り上げは 30 万円～200 万円。3 日間の露天商全体の売上額は約 9 億円といわれている。

次に各町内会の現状としては後継者不足による人手不足があげられる。「京都・祇園祭ボランティア 21」や京都の青年で作るボランティア団体（京都青少年活動推進会議）などがボランティアを募集している。参加したボランティアは祇園祭曳き手ボランティアとして協力し祭りを盛り上げている。今となっては欠かすことのできない存在となっている。

また各山鉦の運営には約 **1500 万円**掛かるといわれ、主に町衆が負担している。しかし人手不足のため町内の経済的・社会的基盤が弱まってきており、祭りの維持・継承が困難になりつつある。祇園祭というかけがえのない文化資産を次代へ継承するために多くの企業が支援している。例えば祇園祭の継承と発展のため京都新聞社では 2008 年の祭りの期間中、祇園祭支援に理解を持つ企業・団体の協力のもと、「文化支援キャンペーン—時を超えて・祇園祭 2008」を展開している。このキャンペーンの内容としては、京都新聞紙面やポスターで祇園祭の現状や文化的意義を多くの人に知ってもらい振興を呼びかけ、支援企業の協賛金や企業の商品の売り上げの一部を財団法人祇園祭山鉦連合会へ寄贈する活動をされている。町衆だけでなく町衆以外の方たちがボランティアとして、また企業も一丸となって祇園祭の伝統を守っていることがわかる。

4. 山鉦の特徴

32 基の中で特に特徴的だと思う長刀鉦、綾傘鉦、南観音山、鶏鉦の紹介をしようと思う。

●長刀鉦

山鉦の中で最も早く創建されたといわれ、鉦頭に疫病邪気を祓うとされる大長刀をつけるので、この名でよばれる。長刀は八坂神社に向かわないように付けられている。古来、くじ取らずで、常に巡行の先頭を進む。現在、生稚児を乗せる唯一の鉦で、生稚児が 2 人の禿(かむろ)を従えて稚児舞が披露される。この鉦にはペルシャ製の前掛や、中国製の胴掛など貴重な懸装品が数多く所有されている。



●綾傘鉦

素朴な小型の鉦を神のよりしろとして町々を飾り、持ち歩いて疫霊の退散を祈願したものがはじまりで、それが傘鉦となり、やがて鎮花祭の形式をとって悪疫鎮圧の鬼踊りが加わったのが綾傘鉦である。

綾傘鉦は応仁の乱以前からある音楽と舞踊を主にした風流傘で、他の山鉦とは異なる特徴を持つ。巡行時のお囃子は壬生衆六斎の奉仕によって行われ、綾傘鉦はこうした特色のなかに平安朝以来の風流踊りの伝統を遺し、信仰芸能の一致した形態を今に継承している。生身の人間がお稚児さんになる数少ない鉦のひとつである。



●鶏鉾

中国の紀元前二千年頃、天下が良く治まり訴えが出るものもなく訴訟用の太鼓も用はなくなり太鼓には苔が生じ鳥が巣を作ったという平和を表した中国の故事が由来である。装飾としては、見送りは16世紀ベルギーで製の毛綴で重要文化財に指定されている。トロイ戦争で王子ヘクトルが妻子に別れを告げるイーリアスの一場面「コリオラーヌス將軍ローマ開城」を描き、滋賀県長浜祭の鳳凰山見送りと対をなしている。



●南観音山

下り観音山ともいう。昔は北観音と毎年交互に出ていたが、現在では両者とも毎年巡行に参加している。女人禁制だった山への立ち入りを早くに解禁した。「楊柳観音（ようりゅうかんのん）」を本尊としている。かつて、柳の枝は噛むことで口内の掃除に用い、口臭を消して病気から守る役割を果たしていた。ここから本尊には無病息災の御利益があるとされている。

ここではすべての山鉾を紹介できなかったが、32基のどの山鉾も特徴的で装飾は豪華であり「動く美術館」と評されるほど全国、海外で有名である。32基の山鉾には、侵攻皇后・聖徳太子・役行者・天神様・観音様などの装飾や神話や中国の故事に基づいた作り物、仏教、儒教、道教などの教えを取り入れた山鉾があり、さまざまな神が集まり祇園の神をたたえている形となっている。いろいろな宗教が融合している点も一つの魅力といえる。

5. 山鉾連合会資料室に行く

私たちは、祇園祭についてもっと知りたいと思い山鉾連合会資料室というところに行った。この資料室には、祇園祭にゆかりのある様々な図書が置いてあり、他にも図録や、歴史書、新聞など1000点あまりが所蔵されている。ここで私たちは、祇園祭に関する本を読んだり、ビデオを見たりすることができた。そこに滞在した時間が2時間弱と短かったの

で、すべてを見ることはできなかったが、祇園祭についての知識を少し深めることができた。

私たちは、普段は見ることのできない鉾建ての様子をビデオで見た。鉾建てとは17日の山鉾巡行のために10日から14日にかけて山鉾町ごとに山や鉾が組み立てられることである。まず、ばらばらの状態の鉾の部材を蔵から出して、それを道路上の所定の位置で組み立てていく。祇園祭が行われるごとに一から組み立てられ、鉾建てには、釘は一切使わず木と木を組み合わせて縄でしっかり締めて立てていく「縄がらみ」という手法がとられる。釘を使うと数年でやぐらが壊れてしまうが、縄を使うことで木を傷めにくくする効果がある。このビデオをみて、鉾建てがいかに重要な作業かがわかった。鉾自体の重さがかなりある上、鉾には数人が乗り巡行していく。また、「辻回し」と呼ばれる方向転換を行う時には、大きく鉾が揺れることになる。そのような状態で何キロも巡行を行うので、鉾建てがしっかりしていなければ山鉾巡行は成り立たないのである。山鉾巡行が長い間行われ続けているのは、こういった山鉾建に思いをかけている人たちがいるからだと感じた。祇園祭を作り上げている人たちは、様々な形で参加されていて、祇園祭を一丸となって作り上げているのだということがわかった。

6. インタビュー

インタビュー①：綾傘鉾の巡行に携わっていた方にお話を伺うことができた。

活動している人はどんな人が多いのですか？

地域の人。昔は町内の人だけだったが、最近はそうでない人も増えてきた。老人が多い。

準備期間はどのくらいですか？

お囃子の練習は6月くらいから。週3回程度集まる。鉾は7月に入ってから飾り付けをする。

鉾は毎年作るのですか？保存してあるのですか？

飾りを外して保存してある。

資金源はどうなっているのですか？

参加している人から集めている。年会費1万円くらい。市から補助金が出たり、有名な鉾は寄付が集まったりする。

鉦ごとに人気の差はありますか？

かなりある。長刀鉦とか有名な鉦なところは人気。

綾傘鉦の特徴はどのようなところですか？

一度なくなった鉦で、復活してからはお囃子は壬生六斎という別の団体に依頼している。お囃子（パフォーマンス）があるので見ている人が飽きないよう順番は中盤になっている。四条鉦と綾傘鉦で7番目と14番目のくじをひく。

大変だと感じることは何ですか？

後継者不足。地域のつながりが薄れてきているので新しく入っている子どもが少ない。あと、お囃子の鐘が重いので、長時間練り歩くのはかなり大変。

楽しいことは何ですか？

やはり、大きなお祭りなので雰囲気味わうだけでも楽しい。お囃子自体も好きだからなお楽しい。

インタビュー②綾傘鉦のお稚児さんをやったことのある方にもお話を伺うことができた。

何歳の頃でしたか？

幼稚園の頃。

どのようにしてお稚児さんは決まるのですか？

立候補で、綾傘鉦保存会の方の推薦がいる。結納金を払ってお稚児さんをやらせてもらう形式。綾傘鉦だと15万円程度。長刀鉦だともっと高いらしい。

具体的には何をしましたか？

幼い頃だったのであまり詳しくは覚えていないが、八坂神社にお清めに行ったことは覚えている。目立つのが好きだったから、たくさんの大人に囲まれて楽しかった。山鉦巡行にも参加した。四条通や河原町通を鉦と一緒に歩いた。

インタビュー③八坂神社の神主さんにも話を伺うことができた。

(※掲載する許可がいただけなかったため省略します。)

7. まとめ

祇園祭お宝性・・・

祇園祭のハイライトである山鉾巡行での32基の山鉾の装飾はそれぞれ特徴的で豪華である。山鉾に美しく飾られる前掛けや胴掛け、見送りは、ペルシャやベルギーなどのタペストリー¹等は江戸時代に輸入された美術工芸品である。例えば、鶏鉾の見送はトロイの王子と妻子の別れを描いた16世紀ベルギー製の毛綴で**重要文化財**に指定されている。ほかにも重要文化財に指定されている装飾品はたくさんある。また水引や屋根部分の破風などの装飾も美しく重要有形民俗文化財に指定され「動く美術館」と評され、日本のみならず世界的にも有名であるということが一つのお宝性と考えた。

また祇園祭は、1100年以上も続く長い伝統がある。私たちは以前からこのことが祇園祭の一つのお宝性ではないかと考えていた。しかし、調べを進めていくうちに祇園祭がただ単に伝統のある祭と一言では言えないことに気付いた。長い伝統のある祭ではあるが祇園祭は1100年の間、途絶えることなく行われたのではない。祇園祭の歴史のところで触れたが、応仁の乱や元治元年(1864)禁門の変によって起こった大火「どんどん焼け」は京の町の多くを焼いたといわれている。第二次世界大戦のときも山鉾巡行が中止されたり、戦乱などによって度々祭は途絶えることとなった。しかし、今日まで祇園祭が受け継がれ、盛大に行われるのは、途絶えるごとに町衆によって再興されていったからである。

ではなぜ京の町が焼け、祇園祭を行える状態でなくなっても、祇園祭を再興しようと町衆が力を注いだのか。祇園祭は疫病退散の祈願として始められたが、疫病の流行は当時の人々の力ではどうすることもできないことであった。詳しくはわからないが、祇園祭(祇園御霊会)をした年には疫病が流行らなかったということも言われており、祇園祭が人々の心のよりどころであったのではないかと考えられる。また、疫病退散の祈願として始められた祇園祭が、国の安泰を願う祭として今も受け継がれており、当時の人にとっても現在においても、祇園祭が人々の間で、なくてはならない存在になっているからであると考ええる。

長い伝統を引き継いでいくことは簡単なことではない。インタビューを通してそのことを強く感じた。古くからの貴重な懸装品を傷つけないよう慎重にそして大切に扱っておられるということ、祇園祭に参加する後継者が少なくなっているといった現状があるが、今の祇園祭をそのまま次の世代に伝えていきたいという思いを持って祭に携わっておられるということがインタビューを通して知ることができた。このようなことから私たちは、祭に携わる人が「誇り」を持って祇園祭を作り上げているのだという印象を強く受けた。祇園祭は、そういった様々な人々の思いを含んだ長い伝統を持つ祭であり、そこにお宝性があるのではないかと考える。

¹ 色とりどりの糸で風景・人物像などを織り出したつづれ織り。あるいは、その壁掛け。

8. 感想

今までの先輩方のルポルタージュを読んでいて、しんどかったという感想がありました。私も今ルポルタージュを終えてみて、同じ意見です。他の課題をやっている時も、お宝性は何なんだろうかと考えていて、常に頭の片隅に祇園祭がありました。そしてこれほど長い期間にわたって一つのことを追求する機会があまりないので根気のいる作業でした。

京都といったら、祇園祭が思い浮かび、祇園祭をテーマに調べていくことになりました。私は祇園祭を見に行ったことがなく、時期的にも祇園祭を見てルポルタージュに取り組むことができないので、実物を見ずにお宝性を発見することができるのかという不安がありました。祇園祭の知識もほとんどなく、まずは祇園祭がどのようなお祭なのかを知るためにできるだけ多くの文献にあたりました。祇園祭の概要や歴史といったことは文献でも調べられますが、祇園祭に参加している人々の思いなど文献だけではわからないことが多く、調べれば調べるほどわからないことも出てきました。インタビューをしなければと思いつつも後回しになってしまい、ぎりぎりになってインタビューの電話をかけたりと慌しくなりました。祇園祭が始まる時期だったため、何回かインタビューを断られましたが、忙しい中インタビューをさせていただくことができました。インタビュー先へ迷惑をかけるという点からももう少し早めに取りかかっておけばよかったと思いました。調べに行き詰まっている時、資料館に行ったり、インタビューをすることは、今までとは違った視点で考えることができ、新たな切り口を開くことができます。また、祇園祭に参加している人の思いは実際に会って話を聞かなくてはわからないことなのでインタビューの大切さを実感しました。祇園祭は1000年以上の歴史がありますが、一言でいうことは簡単でもやはり、1000年以上も続けることは、計り知れないほどの努力と苦労があると思います。一つのお祭を人々が一丸となって作り上げていく、そこには、様々な思いが込められ、祇園祭を作り上げる人たち自身もそうであるが、多くの人を惹きつける力が祇園祭にあるように思います。調べを通して祇園祭の魅力を発見ことができ、祇園祭に対する見方が変わりました。

グループで調べていくと、それぞれの都合もあり、話し合ったりする日程が合わなかったりしましたが、その中でも日程を調節したり、お互いに意見を出し合うことができ、グループで学習することの大切さというものを感じました。きっと私一人では、このようなルポを完成することはできなかったと思います。はじめはお互いあまり知らない者同士だったけれど、同じグループになったこと、そして共に調べることができたこの期間を大切にしたいと思います。はじめにルポルタージュを終えてしんどかったと書きましたが、いろいろな意味で私にとってよい経験となり、しんどい以上に得たものがあつたと思います。

坂本 江里

今回のルポを振り返って、最初テーマを祇園祭に決めた時点では、祇園祭は日本三大祭でありとても有名な祭りなので調べていくうちにお宝性を見つけられるだろうと正直、高を括っていた。祇園祭は有名なため本やインターネットでも情報を入手でき、順調に進むと思ったがそんな簡単にはいかなかった。本やインターネットの情報をたくさん集めても広く浅い知識を得ることしかできなかった。また祇園祭についての視野が広まった分祇園祭の魅力もたくさん見えてきてお宝性を何に絞るか苦戦した。お宝性が絞れないまま時間だけがたちこのルポをしっかりと終えられるか不安だった。不安と焦りから私たちは山鉦連合会資料室に訪問することにした。資料室では祇園祭に関する本、ビデオ、新聞記事など多く資料を見ることによって今まで知らなかった情報を得られ深く学ぶことができた。そして同じ資料館に来られていた方と祇園祭について情報交換ができ、資料まで譲っていただけ貴重な経験ができたと思う。時間をかけ出むいて行った分得られるものも大きいことが実感できた。今回のルポの中で一番参考になったのはやはりインタビューであった。実際に関わっておられる方の話は理解しやすく説得力があった。インタビューをしたことによってお宝性が明確になったと思う。このルポを通して、身近で簡単に得られる大学の本や特にインターネットの情報では深く知ることが難しいことと、やはり深く知るためには資料館や実際に関わっている人へのインタビューに出むいて行くということが重要だと実感した。今回のルポを行って苦労も多々あったが、祇園祭について深く知ることができお宝性も見つけられたので達成感でいっぱいである。今年の祇園祭は今までとは違う見方で楽しめると思う。

岩坪 美里

はじめは毎年テスト期間で行きにくいお祭り、くらいにしか思っていなかったが、祇園祭の歴史にふれ、その魅力を知ることができた。テーマはすぐに決まり順調に進められるかと思ったが、文献資料が思ったより少ないこと、お宝性を見出すことに苦労した。

日本古来のお祭りではあるが山鉦の飾りつけに外来の織物を使用していたり、32基それぞれ奉っているものが異なって、修験道、神道から聖徳太子まで多種多様であったり、長い歴史の中で変わってきたもの、変わらないものをうまく融合させてきた祇園祭の奥深さを感じた。また、祇園祭に携わっている方々にお話を伺うことができ、資料だけではわからなかった部分にふれることができた。調べていく中で出会った「祇園祭は京都の推移を表している」という言葉が印象に残った。

せっかくなので、16日の宵山に行ってきた。祇園祭についての様々な知識を得てから見ると、山鉦一つ一つの形、飾りつけ、それに関わる人たちなど、今までとは違って見えた。今年も多くの人でにぎわっていたが、その人たちの多くは山鉦巡行に込められた願いや、詳しい歴史などを知らないかもしれない。それでも、来ている人たちは皆それぞれ祇園祭を楽しんでいるように見えた。祇園祭が、誰でも楽しめるまちの祭りとして京都に根付いていると感じることができた。

ルポを完成させるまで、グループのメンバーに本当に助けられた。一人では出来ない良い経験が出来たと思う。

坪田 早希

参考資料、参考文献、引用 URL

- 『祇園祭支援キャンペーン』 <http://www.kyoto-np.co.jp>
『京都・祇園祭ボランティア 21』 <http://www.gionmatsuri.jp/volunteer/>
『祇園祭 鉾と山』 http://www.kyokanko.or.jp/3dai/gion_2.html
『鉾と山』 <http://www.hi-ho.ne.jp/kyoto/yamatohoko.html>
『祇園祭 鉾建て』 <http://www.hi-ho.ne.jp/kyoto/hokotate.html>
『祇園祭山鉾巡行 2007』 http://snow200688.web.fc2.com/gionmaturi2007_1.html
『京都祇園祭 南観音山の一年』 <http://www.actside.com/gion>
『京都祇園祭』 <http://www.kyokanko.or.jp/3dai/gion.html>
『京都ガイドブック』 <http://kyoto.nan.co.jp/knowledge/gion.html>
『綾傘鉾保存会』 <http://ayakasahoko.com/>
『祇園祭』 <http://www.kira2thes.net/gionmaturi.html>
『祇園祭の歴史』 <http://www.artkenji.com/>
『祇園祭』 <http://www.raku.city.kyoto.jp/>
『祇園祭の歴史』 <http://you.g-7.ne.jp/>
『京都散歩』 <http://homepage3.nifty.com/kyotosanpo/top.html>

(以上全て最終閲覧日 2008年7月17日)

- 川内将芳『祇園祭と戦国京都』角川学芸出版 (2007)
八木透 『京都の祇園祭と民族信仰』昭和堂 (2002)
米山俊直 『ドキュメント祇園祭：都市と祭と民衆と』日本放送出版協会 (1986)
所功 『京都の三大祭』角川書店 (1996)
小島富佐江 『京町家の春夏秋冬：祇園山鉾町に暮らして』文英堂 (1998)
光川貴浩他 『京の夏、祇園祭』株式会社コトコト (2008)
真弓常忠 『祇園信仰』朱鷺書房 (2000)